

## 第 34 卷 1 号特集

### 「森林資源活用のための情報戦略」への投稿募集

平成 30 年 3 月に高知大学を会場として「森林資源を上手に活用していくために―川上～川下の情報共有を通じて―」と題する森林利用学会シンポジウムが開催されました。このシンポジウムでは、国有林と民有林の現場から林業成長産業化に向けた様々な取り組み、企業による林業のための新たな情報管理技術、そして木材コーディネータの活動について話題提供がなされ、その後のパネルディスカッションでは細部に立ち入った議論も行われました。シンポジウムのキーワードとされた「川上から川中、川下までの情報共有」の言葉通りに、各セクターでの情報をいかにして有効に共有するかが焦点となっていました。

森林資源の活用とは、資源を無駄なく利用することであり、収穫した資源を高い経済効率で産業に活かすことでもあります。そのためには林道などの基盤整備や林業機械といったハード面の技術開発に加え、立木状態での資源情報や伐出された素材の質と量といった情報をいかに正確に得るか、またいかに有効にその情報を利用するかといったソフト面の技術開発も重要です。森林利用学会のこれまでの学術研究発表会や、今回の第 129 回日本森林学会大会における利用関係の発表でも、狭義にはサプライチェーンマネジメントやスマート林業といったキーワードに、また広義にはそれを実現するためのハード面の個々の技術研究といった数多くの成果に、そのことは表れていると言えるでしょう。

そこで本特集では、あえてテーマを細かく規定せず、「森林資源」を「活用」するために取り組まれている、様々な意味での「情報」を得るための、あるいは得られた情報を「戦略」的に応用するための研究に関する原稿を広く募集することとしました。この特集によって、関連する成果を横断的に概観し、これからの森林資源を活用する情報戦略の具体的な立案と実現に向けてのきっかけとなれば幸いです。

本特集は、平成 31 年 1 月末発行の森林利用学会誌第 34 卷 1 号への掲載を予定しており、論文（研究・技術）については**平成 30 年 8 月 31 日（金）までの**、その他の種別（速報、研究・技術資料、抄録、雑録）については**平成 30 年 9 月 28 日（金）まで**原稿を募集いたします。会員の皆様からの多数のご投稿をお待ちしています。

森林利用学会誌編集委員会